

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
岡山理科大学専門学校	昭和50年4月14日	奥田 宏健	〒700-0003 岡山県岡山市北区半田町8-3 (電話) 086-228-0383																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人加計学園	昭和36年9月20日	加計 晃太郎	〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 (電話) 086-256-8403																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	アクアリウム学科	平成16年文部科学省 告示第29号	-																						
学科の目的	水生動植物の飼育・繁殖・技術開発などの知識と技術を身に付け、水族館、専門店、養殖場、水産会社、総合ペットショップ、環境調査会社、水槽製作会社などへ就職、活躍できる人材育成を目的とする。																									
認定年月日	平成27年2月17日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	92	62	0	34	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人	59人	1人	1人	7人	8人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は100点満点とし、60点以上を合格とする。評価は100点～80点を優、79～70点を良、69点～60点を可とし、59～0点を不可とする。																						
長期休み	■春期休業日:4月1日～4月9日 ■夏期休業日:7月20日～8月31日 ■冬期休業日:12月21日～1月9日 ■学年末休業日:3月21日～3月31日		卒業・進級条件	本校に2年以上在学し、本校が定める授業科目を履修し、定められた単位数を修得した者に対して、校長は卒業を認定する。 また学科の定める規定単位数を修得した者に対して進級を認める。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 三者面談、長期欠席者(本人)または保護者への電話・メール連絡		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 海洋実習、河川実習 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) アクアショップ、ペットショップ、養殖場、水族館、水産会社他 ■就職指導内容 就職、進学などの進路支援活動を組織的に行っている。履歴書の書き方指導、面接試験対策など就職課を中心にクラス担任と協力して取り組んでいる。 ■卒業者数 28 人 ■就職希望者数 27 人 ■就職者数 23 人 ■就職率 : 85 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82 % ■その他 ・進学者数: 1人 (平成 30 年度卒業生に関する令和元年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>潜水士</td> <td>①</td> <td>37人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定3級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>観賞魚飼育管理士3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	潜水士	①	37人	24人	サービス接客検定3級	③	1人	1人	サービス接客検定2級	③	9人	6人	観賞魚飼育管理士3級	③	13人	13人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
潜水士	①	37人	24人																							
サービス接客検定3級	③	1人	1人																							
サービス接客検定2級	③	9人	6人																							
観賞魚飼育管理士3級	③	13人	13人																							
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成30年4月1日時点において、在学者59名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者53名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、病氣 ■中退防止・中退者支援のための取組 チューター制によるカウンセリング、専門のカウンセラーの常駐		■中退率 10%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 特待生選抜入試による授業料・入学金減免制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(有)無 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による当該学科のホームページURL	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 https://www.risen.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- ①「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
- ②「就職率」としては、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他通常の収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- ③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国家試験受験資格要件を満たす必須科目の他、最新の知識・技術の修得に応じる科目について、業界と学術の双方からの要人を編集委員に迎え入れて、カリキュラムの構成に配慮している。また、専門職業人としてかつ、関係業務従事にも対応できる人材の養成を目指し、業界・企業の要望を真摯に取り入れるべく、業界の第一線で活躍し、専門に造詣深い講師を招聘することに努めている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校務分掌の中の各種委員会に当該委員会を明記し、教育課程編成に当たっての重要な策定組織と位置付けている。

当委員会の役割は、現教育課程の忠実な履行を調査・審査することと、国家・社会、業界の要請に鑑みて次年度の編成に向けての協議・検討を行うものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
藤井 義弘	岡山県農林水産総合センター水産研究所 所長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	②
岡 秀彦	玉野市立玉野海洋博物館 館長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	③
奥田 宏健	岡山理科大学専門学校 校長		
湯浅 康生	岡山理科大学専門学校 教務課長		
津村 誠一	岡山理科大学専門学校 アクアリウム学科講師		
富澤 直人	岡山理科大学専門学校 アクアリウム学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

現カリキュラムを基にした時間割と担当教員、授業の工夫状況の審査を4月に、次年度のカリキュラム編成の検討を9月に実施する。年間2回の開催としている。ただし、年度内に必要とあれば臨時的開催も妨げない。

(開催日時(実績))

第1回 平成30年4月25日 16:30～17:30

第2回 平成30年11月21日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

平成30年度の教育課程編成委員会での提言を踏まえ、「水槽理論A」・「観賞魚飼育実習A」・「アクアテクノロジー理論」・「アクアアート実習」の各科目内容が相互に関係し、一連の流れとなるように内容の変更を行った。具体的には「水槽理論A」で観賞魚の特性・習性・飼育方法や飼育に必要な機器類の使い方等、基礎的な知識について教授し、「アクアテクノロジー理論」では先述の「水槽理論A」で教授された観賞魚に関する基礎知識、水槽設備器具の管理・運用方法について理解が深まるよう講義を行う。「観賞魚飼育実習A」・「アクアアート実習」では実際に観賞魚の飼育を行い、観賞魚が長期飼育ができるよう技術を習得させる。また水槽を「魅せる」方法についても教授していけるよう変更を行った。

以上、上記のように科目間に関連性をもたせた。

外部委員より日本産淡水魚や近海の海水魚に関する内容を授業に取り入れてはどうか、という意見を踏まえ、「アクアテクノロジー実習A・B」の科目名称を「水生生物飼育理論Ⅰ・Ⅱ」に変更し、授業に日本産淡水魚・水棲生物・近海産海水魚に関する内容に変更をした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 教育交流協定先には、岡山市中央卸売市場、玉野市立玉野海洋博物館、池田動物園などがあり、それらの施設での演習等をカリキュラムに組み込んでいる。また校外実習として、年2回国内海洋研修(鹿児島、沖縄県等)と2年に1回の海外研修を実施。いずれも当該施設担当職員などの指導・教授を仰ぎ、最前線のアクアリウム体験に奏功するように努めている。さらに卒業後の職業実践を見据え、関係企業へのインターンシップを履修科目としている。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 池田動物園においては、学園との包括教育連携協定となっている。玉野市立玉野海洋博物館については、本校独自の教育協定である。 水族館、観賞魚販売、アクアショップや養殖業者など多数の企業とインターンシップ協定を結んでいる。また年1回のミニシンポジウムを開催し、魚病専門家、水族館、養殖場、水産総合研究所等の専門家による講演を開き、情報交流を行っている。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
魚類繁殖実習Ⅰ	魚類繁殖理論の理解を助け、基礎的な魚類繁殖の技術を身に付ける。	岡山市中央卸売市場
魚類繁殖実習Ⅱ	観賞魚・食用魚あるいは淡水魚・海水魚など、数多くの魚類が人の手によって繁殖されている。これらの技術を修得するための基礎理論の理解を深めることを目標とする。	岡山県農林水産総合センター 水産研究所
アクアテクノロジー実習A	水界に生息する生物は、その環境変化のほとんどを水を介して受け入れている。したがって、水質が個々の生物に与える影響や好適範囲に関する知識や水質の指標に関する知識が必要となる。これらの知識を習得させる。	岡山市環境学習センター 「めだかの学校」 岡山市水道局 三野浄水場 鹿児島県瀬戸内町
水槽製作実習	水槽製作技術は飼育テクニックとならぶ重要な技術であり、アクリル、塩ビの接着、溶接など、水槽作りの第一歩を学ぶ。	株)コバックス関西
インターンシップ実習	水族館、専門店、養殖場などにインターンとして前期と後期に2週間ずつの実習を行い、実際の仕事と社会体験を通じ、即戦力となる知識と経験を積む。	玉野市立海洋博物館 有限会社 辻水産
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 国内外の最新海洋、アクアリウム技術の研修のために、学会やボランティアに積極的に参加することを奨励している。		
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会の出席」(連携企業等:福山市経済環境局環境部環境保全課他) 期間:平成30年5月31日(木) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一 内容:スイゲンゼニタナゴの保護育成、繁殖等 研修名「千葉科学大学 次世代型養殖施設開所式の出席」(連携企業等:水産研究所他関係者) 期間:平成30年6月27日(水) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一 内容:循環ろ過施設の見学と地域活性についての研修 研修名「広島蝶鮫の養殖場の視察」(連携企業等:広島蝶鮫の養殖場) 期間:平成30年6月11日(月) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一、原田博代 内容:チョウザメ類の種苗生産とふ化仔魚の飼育方法、他の研修 研修名「ビオトープ管理士セミナーの参加」(連携企業等:公益財団法人日本生態系協会) 期間:平成30年7月7日(土) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一 内容:公益財団法人日本生態系協会による研修		

<p>研修名「盈進中学高等学校 古本研究室の研修」(連携企業等:盈進中学高等学校) 期間:平成30年6月26日(火) 内容:スイゲンゼニタナゴの仔魚飼育について研修</p>
<p>研修名「倉敷芸術科学 山野研究室の研修」(連携企業等:倉敷芸術科学大学) 期間:平成30年7月5日(木) 内容:タナゴ類の飼育、生態について研修</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「種苗生産技術交流会の出席」(連携企業等:近畿大学他共催、各水産関係企業、他大学等) 期間:平成30年8月8日(水)、9日(木) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一、岸本和也 内容:種苗生産等に関する研究について意見、情報交換</p>
<p>研修名「ACNフォーラムの出席」(連携企業等:特定非営利活動法人ACN) 期間:平成30年10月16日(火) 対象:アクアリウム学科教員 富澤直人、原田博代 内容:種苗生産等の研修</p>
<p>研修名「日本動物園水族館 施設会議の出席」(連携企業等:日本動物園水族館協会、全国の水族館関係者) 期間:平成30年10月2日(火)、3日(水) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一 内容:水族館の施設他について研修</p>
<p>研修名「IID2018の出席」(連携企業等:IID、京都大学他主催) 期間:平成30年10月16日(火) 対象:アクアリウム学科教員 津村誠一 内容:プロバイオティクス、ワクチンについて研修</p>
<p>研修名「廃棄瓦の濾剤検証実験」(連携企業等:有限会社廣安瓦建材) 期間:平成30年9月1日(土)～平成31年2月28日(木) 対象:アクアリウム学科教員 富澤直人 内容:廃棄瓦による濾過能力の検証実験</p>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「バナメイエビについて研修」(連携企業等:マリンファーム研究所) 期間:令和元年9月27日(金) 内容:研究所で養殖されているバナメイエビについての養殖、親養成などを現地研修、見学情報交換した。</p>
<p>研修名「ニシキゴイについて研修」(連携企業等:谷口養鯉場) 期間:令和元年9月22日(日) 内容:錦鯉の飼育管理と現在のコイ業界、種苗生産時におけるウイルス病浮腫症についての対策等</p>
<p>研修名「種苗生産技術についての研修」(連携企業等:第17回種苗生産技術交流会) 期間:令和元年8月6日(火)・7日(水) 内容:養殖産業とサステナビリティ、親魚養成と健康管理、種苗生産過程における疾病防除等</p>
<p>研修名「二枚貝(アサリ)の種苗生産研修」(連携企業等:国立研究開発法人 水産研究教育機構 瀬戸内海区水産研究所 百島庁舎) 期間:令和元年10月12日(土)・13日(日) 内容:アサリの種苗生産現場を見学し、説明を受けた。</p>
<p>研修名「淡水魚の研修」(連携企業等:第69回魚類自然史研究会) 期間:令和元年10月12日(土)・13日(日) 内容:淡水魚、スイゲンゼニタナゴ についての研修</p>
<p>研修名「水族館の設備についての研修」(連携企業等:第29回日本動物園水族館施設会議) 期間:令和元年10月23日(水)・24日(木) 内容:水族館の設備について発表、施設の見学、情報交換</p>
<p>研修名「グッドアクアリウムデザイン賞審査員参加」(連携企業等:アクアリウム関連メーカー) 期間:令和元年11月24日(日) 対象:アクアリウム学科長 富澤直人 内容:アクアリウム関連企業が出品する新製品のデザイン審査</p>
<p>研修名:「アマゾンを考える会シンポジウム」(連携企業等:アマゾンを考える会、アクアリウムショップ等) 期間:令和元年7月18日(木) 対象:アクアリウム学科長 富澤直人 内容:アマゾンの自然保護と生態系についてのシンポジウム</p>

②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「魚類養殖、種苗生産についての研修」(連携企業等:第30回ACNフォーラム)
 期間:令和元年10月29日(火)・30日(水)
 内容:ブリ・マダイ・ヒラメ等の養殖に見られる主要な感染症、ノルウエーのサーモン養殖場等についての講演、施設見学など

研修名:「スイゲンゼニタナゴの飼育研修」(連携企業等:岡山理科大学 理学部動物学科 小林研究室)
 期間:令和元年10月
 内容:スイゲンゼニタナゴの屋外水槽でのしいくについて研修、情報交換

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
 設置学科に関係する業界代表者や有識者、卒業生代表、学術機関、他種の専門学校、高等学校、地域代表者を学校関係者評価委員会のメンバーに委嘱し、学校評価(自己点検評価)の公正性の評価を行い、学校運営・経営の適正化に関する意見を聴取して公正な学校教育に資する。また公教育的視野に立って、聴取した意見を公開する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標(質問内容4)
(2)学校運営	学校運営(質問内容6)
(3)教育活動	教育活動(質問内容10)
(4)学修成果	学修成果(質問内容4)
(5)学生支援	学生支援(質問内容8)
(6)教育環境	教育環境 教育環境(質問内容3)
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集(質問内容4)
(8)財務	財務(質問内容4)
(9)法令等の遵守	法令等の遵守(質問内容3)
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献(質問内容4)
(11)国際交流	なし(ただし、学園教育交流協定先からの見学・研修訪問受入れ)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 学校経営の重点課題として、次年度の運営・経営計画の指針とする。また本校教育の現状を公表することによって認知・理解を広く求め、入学者の獲得に寄与する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
洗井 健一	一般社団法人 岡山県建築士会 会長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
春名 章宏	公益社団法人 岡山県獣医師会 会長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
國近 寛康	公益財団法人 岡山県動物愛護財団 事務局長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
松本 浩子	公益社団法人 日本愛玩動物協会 岡山県支所 支所長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
山本 拓哉	有限会社 マリンシアター 代表	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
木村 智久	岡山理科大学専門学校 同窓会 会長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	卒業生
平井 義一	玉野総合医療専門学校 校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	校長
庄 公寿	庄屋電装 株式会社 取締役	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	町内会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ) (広報誌等の刊行物) ・ その他())
 URL:https://www.risen.ac.jp
 公表時期:学校関係者終了後

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者は当該所属の代表者を選定しており、広く所属団体の意見を集約できるものであり、また評価のフィードバックも期待できるものである。学校情報はホームページ、学校案内冊子、刊行物等で広く開示している。また、オープンキャンパスを年10回以上開催し、開かれた学校をPRしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、目標と教育方針、募集定員
(2) 各学科等の教育	各学科の教育内容と目指す職業、取得資格
(3) 教職員	各学科の教職員のキャリアと担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	校外実習・演習の紹介、卒業後の就職先(刊行物パンフレット)
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間学校行事、課外活動、教育施設・設備紹介
(6) 学生の生活支援	チューター制(2)に紹介、学生寮(5)に紹介
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、奨学金、長期履修制度紹介
(8) 学校の財務	収支決算報告(学校関係者評価ページ末尾)に紹介
(9) 学校評価	学校評価と学校関係者評価、保護者評価
(10) 国際連携の状況	学園の国際交流状況
(11) その他	関連学園一覧、アクセス

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.risen.ac.jp>

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程 アクアリウム学科） 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コンピュータ演習Ⅰ	Window、インターネット、デジタルカメラ、電子メール、およびワープロソフト（Word）の実用的な利用方法を習得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得する。	1前	30	2	○			○	○			
○			コンピュータ演習Ⅱ	表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフト（Excel、PowerPoint）の実用的な利用方法を習得しビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得する。	1後	30	2	○			○	○			
○			コンピュータ演習Ⅲ	アクアショップのホームページに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフトを利用してホームページを制作する方法を習得する。	2前	30	2	○			○	○			
○			キャリアマナーⅠ	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそう言ってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学ぶ。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象も向上する。人に喜んでもらえる応対ができるように、自分を見つめ、知識と教養を身につけていく。（サービス接遇準1級取得を目指す。）	1前	30	2	○			○		○		
○			キャリアマナーⅡ		1後	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザイン	自分自身の職業人生やキャリアについて、自ら主体となって構想・設計し、じつげんしていくためにどのように行動すればよいか、セルフワークやチーム学習を通じて気づき学んで行く。	1前	30	2	○			○	○			
○			RS特別講義	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2後	30	2	○			○		○		
○			魚類学	魚類はほとんどの水域で生息しており、歴史的には5億年前から発生したとされていて、その間様々に進化したため、その形態、生態、分布、分類等は多様である。魚類学では魚類の多様性の中、進化、体型、体表、骨格、内分泌等の総論について講義する。	1前	30	2	○			○		○		
○			水産動物学	水界には多種多様な動物が分布しており、それぞれに生活様式を持っている。ここでは人類との関わりにおいて有用なもの、有害なもの、さらには飼育が可能なものについての知識を習得させる。	1前	30	2	○			○		○		

○		魚類生態学	地球上には、きわめて多種の魚類が生息し、それぞれの生活様式を持っている。また、それぞれの種は固体間、環境あるいは種間で関与し合いながら、その生態系を保っている。これらの意味を理解し飼育上の視点となるよう講義する。	1後	30	2	○			○									
○		水界生態学	飼育水槽では、空間も種の組み合わせも限られた条件で飼育していて、そのために生じる過不足は人為的に制御している。一方、自然界では他生物や環境の助けを借りながら、健全に生息している。そこで、水界の生物が他生物や環境との間にどのような関わりをもつかを理解し飼育上の視点となるよう講義する。	1後	30	2	○			○									
○		魚類栄養学	魚類を飼育する上で、餌料の良否が重要な要素であることは言うまでもないが、ここでは、魚類と餌料の関係を栄養的側面から学習する。	2後	30	2	○			○									
○		海洋動物疾病学	近年、各地で養魚が発達しその生産量も地域も拡大していて、それに伴って自家汚染とも考えられる病原生物の問題が深刻化している。同じ海から採集される飼育生物にとっても、疾病は避けて通れない問題であり、その種類や対処方法の知識を習得させる。	1前	30	2	○			○									
○		観賞魚飼育理論	魚類等の飼育生物を長期間飼育する為に、どのような用具や技術、あるいは考え方が必要かを、観賞魚飼育実習とフィードバックを計りながら講義する。さらには、最新の飼育設備の理論や技術についても講義する。	1前	30	2	○			○									
○		水生哺乳類飼育理論	水界に生息する哺乳類は生態系の高次の地位を占めていて、大型のものも多い。現在、イルカ・クジラ類、鰭脚類、海牛類などが飼育されている。これらの事例を挙げながら飼育の知識を修得する。	2後	30	2	○			○	○								
○		魚類繁殖理論	観賞魚・食用魚あるいは淡水魚・海水魚など、数多くの魚類が人の手によって繁殖されている。これらの技術を修得するための基礎理論の理解を深めることを目標とする。	1前	30	2	○			○	○	○							
○		海洋学	飼育対象となる生物の多くは海洋に由来しており、まさに海洋の一部として生息している。即ち、これらの生物と海洋の変化は深く関わっていて、海洋を飼育容器として捉える視点は水生生物飼育にとって重要である。ここでは、海洋の構成や変化について修得し水生生物飼育の基礎知識とする。	1前	30	2	○			○									
○		環境水質学	水界に生息する生物は、その環境変化のほとんどを水を介して受け入れている。したがって、水質が個々の生物に与える影響や好適範囲に関する知識や水質の指標に関する知識が必要となる。これらの知識を習得させる。	1前	30	2	○			○	○								

○		環境保護論	様々な環境問題の本質を理解し、環境保護、環境保全の重要性を学び、持続的発展が可能な社会を実現するために各自がどのような行動をとればよいかを、自然科学、社会・経済活動等の観点から指導し、自ら考え判断する力を習得させる。	2後	30	2	○			○									
○		水槽理論A	ますます発展する水槽設備、周辺器具についての用途と機能を学ぶ。また、水槽の材質、強度及び選定方法と各周辺機器におけるメンテナンス方法の習得を行う。	1前	30	2	○			○									
○		水槽理論B	活魚、観賞魚水槽の基本設計及び電気、配管施工技術をマスターしアクアリウム製作のエキスパートとして幅広い知識と見識を学ぶ。水槽容量（用途）にマッチした冷凍機・ポンプ等周辺器具の最適なセッティングをシミュレーションし、水槽製作における基本設計を学ぶ。	1後	30	2	○			○									
○		水槽設計論	水生生物を長期飼育する為の水槽設備、周辺機器を理解し、水槽の基本設計、システム構築をするために熱量計算、配管抵抗、ポンプの能力等を学ぶ。	1前	30	2	○			○									
○		アクアテクノロジー理論Ⅰ	亜熱帯域における珊瑚礁復活をめざし、造礁サンゴの仕組みと役割及び生活史について理解を深める。（無脊椎動物の学名・和名のマスター）また、希少日本産淡水魚の法的規制と商取引に関わる生物の知識を身につける。	1前	30	2	○			○									
○		アクアテクノロジー理論Ⅱ	従来のろ過システムを根本的に覆したナチュラル方式理論を解説する。自然の恵みである石、珊瑚砂等の堆積物には無数の微小生物が存在し、これらの働きによる複合的かつ連鎖的な結びつきにより水質の浄化がなされていることに気付き、益々進歩するアクアリウムテクノロジーに対する理解を深める。	2前	30	2	○			○									
○		卒業研究	1年次の授業、実習を通じ、チームまたは個人でアクアリウム学科に関係するテーマを決め、問題点の整理、仮説、実験、調査、分析から結果と考察を行い、論文作成、口頭発表を行い、実践的な技術開発研究を行う。	2後	30	2	○			○									
○		最新技術情報研究A・B	各専門分野の最新技術について学ぶ。	2後	60	4	○			○	○	○							
	○	動物飼養管理学Ⅰ	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼育およびペットビジネス、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の習得を目標とし、同時に日本愛玩動物飼養管理士（2級）資格得を目標とする。	2通	60	4	○			○									
○		アクアテクノロジー実習A	従来のろ過システムにとらわれないナチュラル方式を志向する。自然が本来、有する水質浄化能力を最大限生かし、この第二の地球といえるタンクを生態系の完結したシステムを構築し魚類、植物、無脊椎動物が住める環境そのものを再現する。	1前	30	1				○	○								

○		アクアテクノロジー実習B	アクアテクノロジー全般に関する未解明なテーマに取り組み、飼育技術の確立等に挑戦する。なお、取り進めにあたっては実験計画法など効果的手法を取り入れる中で学生個人が持つ才能を最大限引き出す。(2月初旬に研究発表会を実施する)	2前	30	1					○	○	○		
○		観賞魚飼育実習A	観賞魚を長期飼育するための魚病対策、給餌方法、定常的なメンテナンス方法の習得、及び、各テーマ毎に分けた、生体別飼育方法の理解と実践を行う。	1前	30	1					○	○	○	○	
○		観賞魚飼育実習B	観賞魚を長期飼育するための魚病対策、給餌方法、定常的なメンテナンス方法の習得、及び、各テーマ毎に分けた、生体別飼育方法の理解と実践を行う。また、飼育が難しいとされる飼育困難種に挑戦し幅広い実務経験を積む。	1後	30	1					○	○		○	
○		水槽管理実習A	①ペルリ水槽(5t)における定常的なメンテナンスと最新装置維持管理。 ②水質分析方法の習得と飼育記録の管理。 ③学内水槽設備に飼育中の収容生物における水質管理と給餌方法を学ぶ。 ④水質データにおける評価方法と対応。	1後	90	3					○	○	○	○	
○		水槽管理実習B	水槽管理実習Aで学んだ内容を基礎に、不定常作業の実施と習得を行う。また、学生自ら学内水槽設備を自主的管理が出来るよう、指導を行う。	2前	90	3					○	○	○	○	
○		魚類繁殖実習I	魚類繁殖理論の理解を助け、基礎的な魚類繁殖の技術を身に付ける。	1後	150	5					○	○	○	○	
○		魚類繁殖実習II	種苗生産で重要な部分を占める、初期餌料と親魚についての技術を身に付ける。	2前	150	5					○	○	○	○	○
○		水槽製作実習I	水槽製作技術は飼育テクニックとならぶ重要な技術であり、アクリル、塩ビの接着、溶接など、水槽作りの第一歩を学ぶ。	1後	60	2					○	○		○	○
○		水槽製作実習II	水槽理論(実習)Iでの知識及び技術を生かしオリジナルの水槽制作	2前	60	2					○	○		○	○
○		アクアアート実習I	ネイチャーアクアリウム業界における仕組みと実状を学び、有効なマーケティング方式とネイチャーアクアリウムを幅広い視野に捉え、それぞれの分野における特性を理解し、より有効的なシステム、ディスプレイ、アイデアを創造する。	1後	60	2					○	○	○	○	
○		アクアアート実習II	熱帯淡水魚、アクアリウムレイアウトの撮影技術修得と、その写真を生かしたポップ、資料、刊行物の製作を学び、ハイレベルでマルチ的な技術を持つアクアリウムアドバイザーを目指す。	2前	60	2					○	○	○	○	

○		多目的実習Ⅰ	観賞魚（クマノミ類）の親魚管理、仔魚飼育、中間育成、選別出荷、水槽管理等を3名/チームで技術員の指導のもと、実際の量産現場で総合的な実習を行うとともに、コミュニケーション力を養う。	2前	120	4				○	○	○	○	○
○		多目的実習Ⅱ		2後	120	4				○	○	○	○	○
○		インターンシップ実習	水族館、専門店、養殖場などにインターンとして前期と後期に2週間ずつの実習を行い、実際の仕事と社会体験を通じ、即戦力となる知識と経験を積む	1後 2通	60	2				○	○	○	○	○
合計			42	科目	2010単位時間(96単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各科目において学習評価と出席時数による認定によって取得された総単位数が91単位以上であること（全科目必修）。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。